

《幼児教育》

互いのよさに気づき認め合う関係を育むための環境構成と援助の工夫 ～遊びの場や振り返りの場における伝え合いを通して～

那覇市立城南こども園 保育教諭 新城 香理

〈研究の概要〉

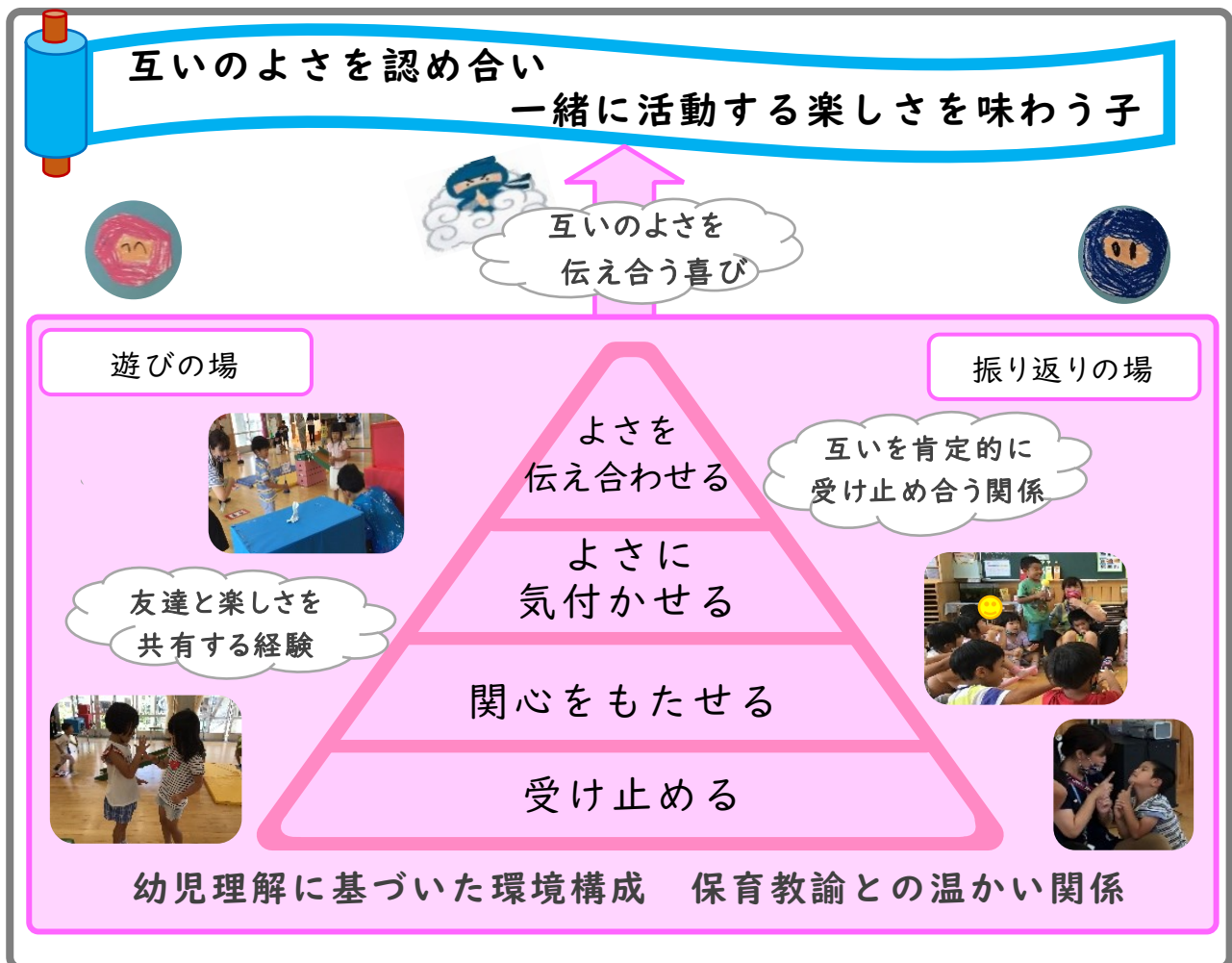
園児は、保育教諭との温かい関係の下、ありのままの姿を受け止めてもらう肯定的な姿勢により、自分が認められることで友達のよさも認められるようになっていく。

本研究では、遊びの場や振り返りの場において、感じたことやよさを友達と伝え合うことで、互いに思いを共有し、受け止めてもらう喜びが感じられるような環境構成と援助の工夫を行った。

保育教諭が「園児を受け止める」「友達に関心をもたせる」「互いのよさに気付かせる」「互いのよさを伝え合わせる」ことに視点をおいて環境構成と援助を行い、実践に取り組んだ。

互いを肯定的に捉える園児の姿が見られたことから、互いのよさに気づき認め合う関係の土台を培うことにつながったと考える。

〈研究のイメージ〉



目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究目標	1
III	研究構想図	2
IV	研究内容	2
	1 温かい関係について	
	2 互いのよさに気づき認め合うために	
	(1) 園児が他者を理解することについて	
	(2) 園児が互いを認め合う過程について	
	(3) 互いを肯定的に受け止めるために	
	3 環境構成と援助の工夫	
	(1) 遊びの重要性と保育教諭の役割	
	(2) 遊びや振り返りの場における伝え合いについて	
V	保育実践	5
	1 保育計画	
	(1) 実態把握（4月，5月）	
	(2) 遊び観（忍者遊び）・保育計画	
	2 実践事例「友達のいいところみ～つけた！ ～友達と一緒に忍者遊びを楽しもう～」	
	(1) 友達に関心をもって遊ぶ姿	
	(2) 友達のよさに気付いて遊ぶ姿	
	(3) 振り返りの場において自分の思いや友達のよさを伝え合う姿	
	3 保育実践を通しての園児の変容	8
	(1) 調査結果から見る友達関係の変容	
	(2) 抽出児の変容	
VI	実践を通しての考察	10
VII	成果と課題	10
	1 成果	
	2 課題	

《主な参考文献》

《幼児教育》

互いのよさに気づき認め合う関係を育むための環境構成と援助の工夫 ～遊びの場や振り返りの場における伝え合いを通して～

那覇市立城南こども園 保育教諭 新城 香理

I テーマ設定の理由

「自ら育つものを育てようとする心、それが育ての心である」と論じた倉橋（2008）は、その著書にて、育つものと育てるものとが、互いの結びつきにおいて楽しむ温かな世界について述べている。幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以下教育・保育要領）解説の領域「人間関係」においても、園児が保育教諭に温かく見守られているという信頼関係を基盤に、人と関わる力の基礎が培われることが明記されている。さらに、内容の取扱い（2）には「園児が自己を発揮し、保育教諭等や他の園児に認められる体験をし、自分のよさや特徴に気づき、自信をもって行動できるようにすること」と示されていることから、園児の育ちには「温かい」関係が重要であるといえる。

また領域「人間関係」において、温かい集団を形成する過程では、保育教諭が園児のありのままの姿を受け入れる肯定的な姿勢により、自分が認められることで友達のよさも認められるようになっていくことが記されている。領域「言葉」には、周りとの温かい関係の中で、言葉での伝え合いを通して、相手の話を聞き相手のことを理解したり、共感したりすることで、互いの思いが分かる楽しさや喜びが味わえるようになると記述されている。これらのことから、園児が互いのよさに気づき認め合えるようになるためには、保育教諭が一人一人の園児のよさを認め、園児が思いや考えを伝え合うことで、互いを受け止め合う温かい関係をつくっていくことが重要だと捉える。さらに園児は、喜怒哀楽等の心を動かされる体験の中で自分の思いを伝えたいと示されていることから、多様な感情体験を通して、互いの思いや考えを共有する経験を重ねることが必要だと考える。

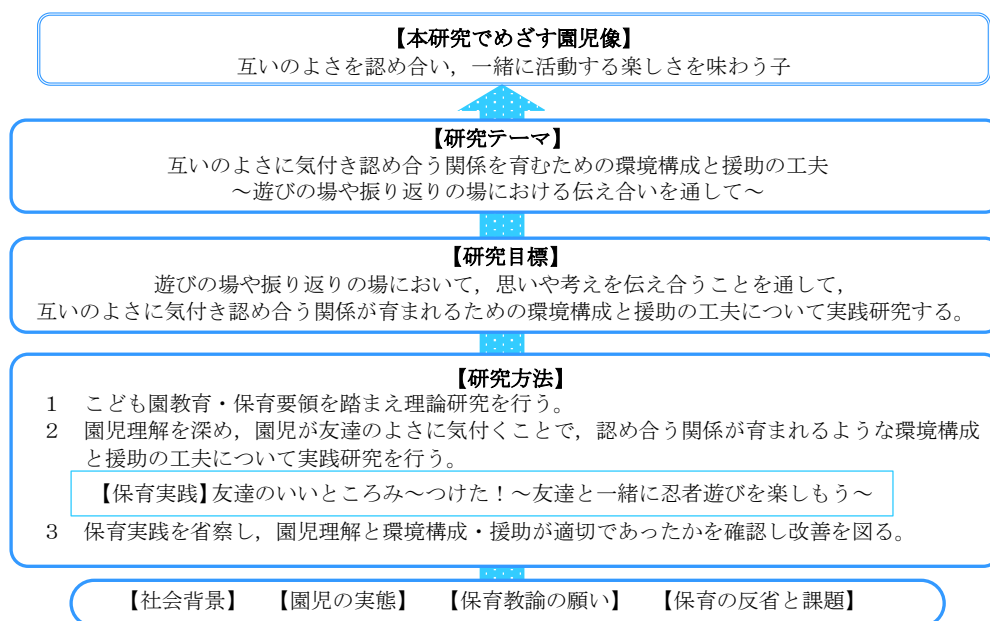
本園の園児の実態としては、気の合う友達を誘って、一緒に好きな遊びを楽しむ姿が見られる。一方で、自分とは異なる考えを否定したり、感情の行き違いから遊びの途中で抜けたりする等、相手の思いや考えを受け入れられない姿も見られる。これまでの保育を振り返ってみると、保育教諭は、園児の思いやよさを他児に気付かせ、互いを肯定的に受け止め合えるような援助や、多様な感情が行き交うような遊びの場の工夫が十分ではなかったと感じる。遊びの中で園児一人一人のよさや持ち味が生かされることで、友達のよさにも気づき、互いを肯定的に受け止め認め合える関係を築くための援助について考えていきたい。

本研究では、遊びの場や振り返りの場において、感じたことやよさを友達と伝え合うことで、互いに思いを共有し、受け止めてもらう喜びが感じられるような実践研究を行う。また、保育教諭が園児一人一人に肯定的なまなざしを向けることで、園児同士も互いを肯定的に受け止め合う関係が培われると考える。そこで、保育教諭と園児との温かい関係の下で遊びの場や振り返りの場における伝え合いを通して、友達のよさに気づき認め合う関係が育まれるような環境構成と援助の工夫について研究したいと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

遊びの場や振り返りの場において、思いや考えを伝え合うことを通して、互いのよさに気づき認め合う関係が育まれるための環境構成や援助の工夫について実践研究する。

Ⅲ 研究構想図



Ⅳ 研究内容

1 温かい関係について

『幼児理解に基づいた評価』（文部科学省，2019）には，教師の幼児一人一人を大切にしている姿勢が，幼児との温かい関係を育んでいくと示されている。さらに，その教師の姿勢は，幼児同士が互いを大切にしている姿勢にもつながっていき，学級全体の温かい関係をつくり出すことにつながると記されている。

このことから，園児同士の温かい関係を育むためには，保育教諭の園児に向ける温かいまなざしや関わりが重要だと考える。保育教諭が園児と温かい関係を育むための配慮点を『幼児理解に基づいた評価』を参考にまとめた（表1）。この配慮点に留意しながら，園児一人一人と温かい関係を築き，学級全体の温かい関係づくりにつなげていくことで，互いのよさを認め合う関係を育んでいく。

表1 保育教諭が園児と温かい関係を育むための配慮点

○園児に対する優しさが必要
○園児に対する関心をもち続ける気持ちが必要
○園児に関心をもっている気持ちを具体的に伝えることが大切
○園児を尊重する気持ちが必要
○園児一人一人の心の動きに合わせた関わり方が大切

『幼児理解に基づいた評価』（2019）を参考に筆者作成

2 互いのよさに気づき認め合うために

(1) 園児が他者を理解することについて

神長(2004)は，幼児が他者を理解したいという気持ちになるには，自分の気持ちが安定していることがとても重要であり，保育者が幼児一人一人の気持ちの安定を図ることの必要性を述べている。また，幼児が他者を理解しようとする際に，5つの方法（表2）が考えられるとし，幼児が相手のことをどのような理解の仕方で行っているのかを保育者が把握し，援助していくことが大切であると記述している。このことから園児の他者理解を促すには，保育教諭が個の立場になって相手の気持ちに気付くような働き掛けが必要だと考える。そして園児が互いのよさに気づきながら遊ぶためには，相手のことを知りたい，理解したいという気持ちが大事だと思われる。

本研究では，保育教諭も一緒に遊びの仲間に加わりながら，友達とかかわりたいという園児の気持ちを引き出していく。またその中で，表2を参考に友達の思いや考えに気付くように働き掛け，園児の他者理解を促していく。

表2 園児の他者理解の方法について

表情や雰囲気から察する理解	「泣いているからいやなんだろう」というように、表情や雰囲気から気持ちを察する方法
言葉による理解	「本人が『やめて』と言うからいやなのだろう」というように、言葉を聞いて理解する方法
直接気持ちを尋ねることによる理解	「どうしたの?」「いやなの?」というように、相手の気持ちを直接尋ねる方法
自分を基準とした理解	「自分だったらこう思う」というように、自分を基準として理解する方法
論理的推論による理解	「〇〇ちゃんは、いつも〜だから、きっと…だろう」というように、他者の立場に立ち、道筋を立てて論理的に正しく理解する方法

神長（2004）を参考に筆者作成

(2) 園児が互いを認め合う過程について

教育・保育要領解説の領域「人間関係」では、保育教諭が園児一人一人のありのままの姿を受け止める姿勢の中で、園児は、友達と様々な心を動かす出来事を共有し、互いの感じ方や考え方、行動の仕方に関心を寄せ、それぞれの違いや多様性に気付いていくことが大切であると示されている。園児は初め、「〇〇ちゃんは歌が好き」と表面的な特性に気付き、次第に「やさしい〇〇ちゃんならこうするであろう」と相手の考え方等、心情面にも気付くようになると記されている。

また神長（2019）は、発達の段階を踏まえた経験を重ねることで、幼児は5歳児になると、集団としてのつながりを深めるようになると記述している。さらに、互いに認め合う学級をつくるためには、保育者は幼児一人一人の育ちを学級全体に伝えていかしていくことが重要であると述べている。このことから、保育教諭が園児一人一人のよさを捉えていき、周囲に伝えながらよさや持ち味を生かしていくことが大切だと考える。園児自身も自分のよさに気付くことで、友達のよさにも気付くことができ、互いのよさを認め合うことにつながるのだと思われる。

教育・保育要領解説の領域「人間関係」を基に、園生活の中で保育教諭との温かい関係を基盤に、園児が互い認め合う過程についてまとめた（図1）。本研究では、園児が認め合う気持ちを育むための援助を行っていく。

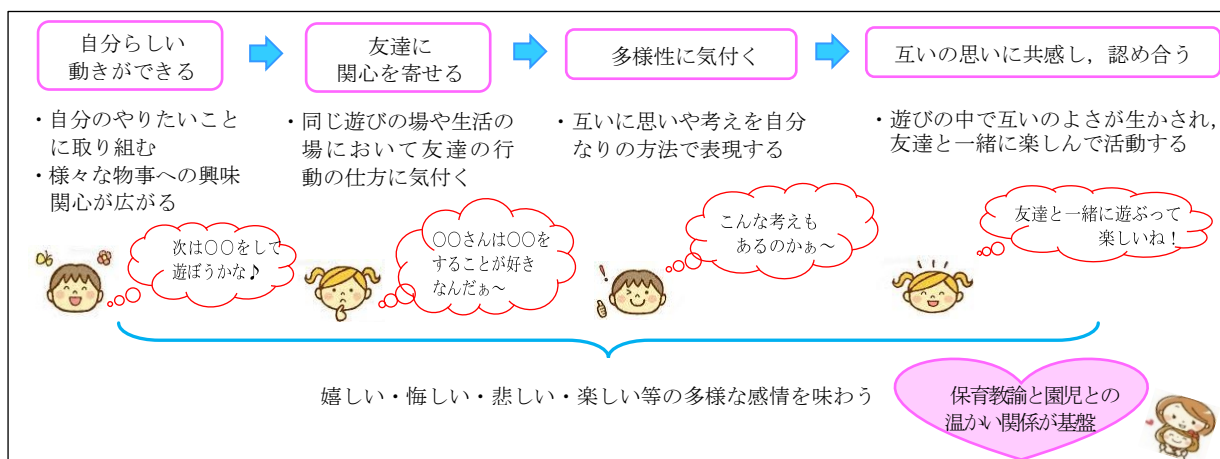


図1 園児が互いを認め合う過程

(3) 互いを肯定的に受け止めるために

『幼児理解に基づいた評価』には、幼児は友達から肯定的に受け入れられていると感じるときに、自分らしさを素直に表現するようになり、教師の幼児に対する否定的な見方は、幼児との信頼関係を失う可能性も出てくると示されている。また安部（2018）は、視点や物事の枠組を変えることを「リフレーミング」と呼び、否定的な行動や言葉は、見方を変えると肯定的なものになり、互いを温かく認め合えるようになると述べている。

このことから、保育教諭が園児一人一人に肯定的な姿勢を向けることで、園児同士も互いを肯定的に受け止め合うようになり、よりよい仲間関係に反映されるのではないかと考える。

さらに教育・保育要領解説では、「園児は肯定的な気分の方が他児に対して思いやりの行動をしやすい」と記されている。そこで、学級の実態を踏まえて、園児が使っている否定的な言動について、肯定的な表現にリフレーミングしてまとめた（表3）。実践の中で園児から否定的な言動が見られた際には、相手への伝え方や捉え方を肯定的にリフレーミングしていけるよう、表3を参考に働き掛け、園児同士が互いを肯定的に受け止め合う関係を築くことにつなげていく。

表3 相手に肯定的に伝える表現方法

否定的な言動	→	伝え方や捉え方を変えてみると
やるな！	→	やらないでほしいな
どいて！	→	少し寄ってくれる
もお！ねえ！	→	〇〇してほしいな
ちがうし！	→	〇〇だと思うな
うるさい！	→	小さな声で話してね

安部（2018）を参考に筆者作成

3 環境構成と援助の工夫

(1) 遊びの重要性和保育教諭の役割

教育・保育要領解説には、遊びは園児にとって大切な学習であり、教育及び保育は、遊びを通しての指導を中心に行うことが重要であると示されている。河邊（2012）は、幼児の遊びにおける保育者の役割は、子どもがやってみたい、楽しいと思えるような遊びに出会わせ、適切に環境を構成することであると記されている。

濱名（2018）は、幼児の人間関係は遊びを通して形成されていくため、アイデア次第で多様な展開が可能となる遊びの環境を整え、イメージを共有していけるようにする必要があると記述している。また無籐（2018）は、多様な感情を体験することは、自分や仲間の気持ちに気付き、理解するようになる貴重な経験であることから、保育者は、喜怒哀楽の気持ちを意識したりする場面を積極的に用意していくことが求められていると述べている。このことから、保育教諭は園児からアイデアを引き出しながら共に遊びの環境をつくっていくことで、園児同士の思いやイメージをつないでいくことが重要だと考える。

そこで本研究では、多様な感情体験が味わえるような遊びの環境を構成していく。遊びを通して、友達の思いやよさに気付き、互いのよさを受け止め認め合う関係を育んでいく。

(2) 遊びや振り返りの場における伝え合いについて

教育・保育要領解説の領域「言葉」では、園児は生活の中で心を動かされる体験をしたときに、それを親しい人に伝えたいことが示されている。心を動かされる体験は、感動的な体験だけでなく感情的な体験もあるとし、保育教諭は園児の体験を捉え、伝えたい思いと相手の話を理解したいという気持ちを育むことが重要であると記されている。また園児は、活動前や活動を振り返る日常的な集まりの場などを通して、聞くことの楽しさを感じるようになる。そのために保育教諭は、落ち着いた場や、伝え合うための工夫や援助をすることが大切であると記述している。

大豆生田（2018）は園生活においての語り合いの場は、他児の思いを知る場であるばかりでなく、他児が興味をもっている遊びを知る機会にもなり、情報を共有することで、自分の世界のみならず、他者の世界を知る重要な場となっていると述べている。このことから、保育教諭は、園児が多様な感情体験を味わうことで、互いに感じたことや考えたことを伝えたいような遊びの場を工夫することが重要だと思われる。また、振り返りの場を設定し、園児同士が思いや考えを共有する機会を通して、友達に思いを言葉で伝える楽しさや相手の思いに共感する喜びを味わうことで、互いのよさを伝え合う関係が育まれると考える。

これまでの研究内容を踏まえて、友達によさに気づき認め合う関係を育むための環境構成と援助の視点についてまとめた（表4）。表4に基づいて実践を進めていく。

表4 友達によさに気づき認め合う関係を育むための環境構成と援助の視点

園児の姿 視点	自分らしい動きができる ➡ 友達に関心を寄せる ➡ 友達のよさに気付く ➡ 友達とよさを認め合う			
	【視点1】 園児を受け止める	【視点2】 友達に関心をもちさせる	【視点3】 互いのよさに気付かせる	【視点4】 互いのよさを伝え合わせる
☆環境構成 ♡具体的な保育教諭の援助	☆自分の思いや考えが伝えられるような受容的な雰囲気をつくる。 ☆安心して自己を表出しながら保育教諭や友達との遊びが楽しめるような場をつくる。 ♡一人一人に肯定的なまなざしを向けて、自分の思いを出せるようにする。不安を感じている子には、思いを受け止め、安心して過ごせるようにする。 ♡一人一人のありのままの姿を受け止め、その子らしく、自信をもって行動することができるようにする。 ♡自分の思いを安心して相手に伝えることができるようにする。	☆友達の遊びの様子に関心がもてるように、室内外での遊びの様子を可視化するための写真を使った表示を作成する。 ☆遊びの後に、他児の思いや考え、興味をもっていることに気付けるような機会を設ける。（振り返りの場等） ♡相手にも思っていることや伝えたい思いがあることが気付けるようにする。 ♡自分や友達のことに興味や関心がもてるような言葉掛けをする。	☆十分に遊び込める時間を設ける。（体調、体力、気温に配慮した時間に配慮する） ☆様々な感情体験が味わえるような遊びの場を工夫する。 ☆園児同士の思いや活動をつないでいけるように、遊びの場や振り返りの場での互いを受け止め合っている様子を可視化するための表示を作成する。 ☆思いや葛藤場面においては、互いに思いを伝えたり、聞いたりできるような時間と場を十分に確保する。 ♡思いや考えを学級全体で共有することで、園児同士の温かい関係を育んでいく。 ♡互いの感じ方、考え方、行動の仕方等の違いがあることに気付けるようにする。 ♡意図的に肯定的な態度や言葉かけに配慮する。 ♡遊びの中での園児のつぶやきを逃さずに聞き取り、周りの園児に伝え、思いを共有し合う。 ♡一人一人のよさを十分に受け止めながら、周りの友達にもそのよさを具体的に言葉で伝えていく。	♡遊びの中で、互いに思いや考えを伝えたり、相手のよさを受け止めたりする姿を見逃さずに具体的に言葉にしていくことで、園児同士が受け止め合う心地よさが味わえるようにする。 ♡互いの思いや考えを受け止めながら遊びを進めていくことで、より遊びが広がり豊かになる経験が重ねられるようにする。

園児の他者理解（表2）と互いを認め合う過程（図1）を基に筆者作成

V 保育実践

1 保育計画

(1) 実態把握（4月、5月）

本研究の対象クラスである年長児（きりん組、23名）は進級児が16名であり、クラスのほとんどが集団生活の経験がある。しかし、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止により、始業式翌日から登園自粛が要請され、大半の園児が家庭で過ごしていた。5月中旬から通常保育が再開されると、再開当初は進級児・新入園児共に新しい環境に戸惑う様子があった。遊びの中では、進級児を中心に昨年度より楽しんでいた遊びや簡単なルールのある遊びを通して、友達と関わる姿が見られる。一方で、自分とは異なる考えを否定したり、感情の行き違いから遊びの途中で抜けたりする等、相手の思いや考えを受け入れられない姿も見られる。園児が友達のよさに気づき、受け止め合いながら遊ぶことに関して課題がある。

(2) 遊び観（忍者遊び）・保育計画

園児は、忍者についてカッコいい等のイメージをもっており、「忍者遊び」は友達とイメージが共有しやすい遊びだと考える。園児がこれまで興味をもって遊んでいたこま回しや運動遊具等を「忍者遊び」のイメージにつなげることで、どの子も関心をもって遊ぶことができると思われる。また、遊びのイメージを共有することで、園児は友達との関わりが増え、多様な感情体験が味わえるような遊びになるであろう。遊びを通して、友達に関心を寄せることで、相手の思いやよさにも気付くようになり、互いのよさに気づき受け止め認め合う関係を育むためには有効な遊びであると考える。

実 践	〇ねらい ・ 内容
(1) 友達に関心をもって遊びを楽しむ (6月下旬～7月上旬)	〇色々な忍者遊びに興味や関心を持ち、友達とアイデアを出し合いながら遊ぶ楽しさを味わう。 〇互いに思いや考えを伝え合う喜びを味わう。 ・ 忍者遊びに興味や関心をもって、友達と一緒に忍者遊びを楽しむ。 ・ 感じたことや気付いたこと、友達のよさを伝え合う。
(2) 友達のよさに気付きながら遊びを楽しむ (7月8～10日・13日) ※10日(本時)	〇忍者遊びを通して、互いのよさに気付き、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 〇自分の思いや考えを伝え、受け止め合う喜びを味わう。 ・ 友達のよさに気付きながら、忍者遊びと一緒に楽しむ。 ・ 感じたことや気付いたことを伝えながら、互いのよさを受け止め合う。

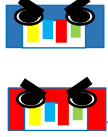
2 実践事例「友達のいいところみ～つけた! ～友達と一緒に忍者遊びを楽しもう～」

友達とイメージを共有して遊ぶことができるように忍者遊びの場を設定した。最初は、保育教諭が遊びを提示して取り組んだ。遊びに必要な道具を園児と共に準備することで、どの子も興味や関心をもって遊ぶことができるような環境構成の工夫を行った。遊びを提示した後は、園児の動きや様子に応じて、園児から遊びのアイデアを引き出ししながら、遊ぶ内容や遊び方を学級で相談し、遊びの場をつかっていった。

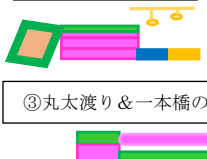
忍者遊びの後には、毎回「ハッピータイム」と名付けた振り返りを行った。振り返りでは、落ち着いた場を設けることで、友達と感じたことや気付いたことを伝え合い、思いを共有しながら、互いのよさに気付き受け止め合えるように援助した。

《忍者遊びの環境図・場所：遊戯室》

①手裏剣入れの術



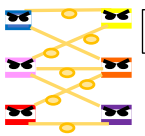
②ジャンプの術



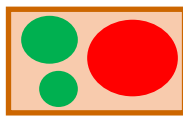
③丸太渡り & 一本橋の術



④くもの巣の術



⑤コマ回しの術



☆①④⑤の遊びは、園児の遊ぶ様子に応じて遊びの場所を変えていった。
遊び方のアイデアを話し合う機会をつくることで、友達との関わりが増えるようにした。また、遊びに必要な道具を園児と共につくっていくことができるようにした。

☆②③の遊びでは、友達のよさに気付く遊びにはつながらない様子が見られたが、園児のアイデアから生まれた遊びで、遊びの中で園児同士の忍者の世界観をつくるために、活動に取り入れた。

(1) 友達に関心をもって遊ぶ姿(6月下旬～7月上旬)

環境構成と援助の視点(表4より)	☆環境構成	♡保育教諭の援助
【視点1】 園児を受け止める 【視点2】 友達に関心をもたせる 【視点3】 互いのよさに気付かせる 【視点4】 互いのよさを伝え合わせる	☆園児の遊びのイメージが広がるような教材を用意する【視点1】 ☆園児が友達とイメージを共有して遊ぶことができるような遊びの場を設ける。【視点2】 ☆園児のよさや持ち味が生かされるように、遊ぶ環境を共につくっていく。【視点3】	♡園児一人一人に肯定的な姿勢を向けることで、園児同士も友達のことを肯定的に捉えられるようにする。【視点1・2】 ♡遊びを楽しみながらも、友達の動きや様子にも関心が向けられるような言葉掛けをしていく。【視点1・2】 ♡園児一人一人のよさを十分に受け止めながら、周りの友達にもそのよさを具体的に知らせていく。【視点3】

6月下旬～7月上旬に見られた園児の変容



- ・ 自分の好きな忍者遊びを楽しむ姿が見られた。
- ・ 忍者遊びを一通り楽しんだ後は、気の合う友達を誘って一緒に遊ぶ姿が見られた。

➡



- ・ 遊びの中で、「頑張り」と友達を応援する姿が見られた。
- ・ 技が成功すると、「すごい」と喜びを友達と共有する姿が見られた。

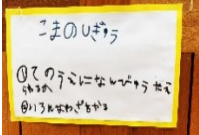
◇保育教諭の見取り◇

忍者遊びのイメージが広がるような絵本や教材を準備し☆**視点1**、園児同士の遊びのイメージをつなげる遊びの場を設けたり☆**視点2**、忍者遊びに必要な道具を園児と共に作ったりした☆**視点3**。これまで学級の活動に消極的だった園児も自ら遊びに参加するようになり、どの子も遊びを楽しむ姿が見られた。また、遊びの場を学級全体で共有したことで、友達との関わりが増えたと捉えた。

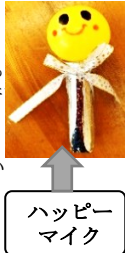
保育教諭は、互いの遊んでいる様子に関心もてるように「その遊び面白そうだね」♡**視点1**「手裏剣の投げ方教えて」♡**視点2**と一緒に遊ぶ中で、周りの園児にも伝わるように声を掛けた。友達を応援したり喜びを共有したりする等、友達が遊ぶ様子に気付き、遊びの面白さに共感しながら、友達に関心をもって遊ぶ姿が見られた。

さらに、友達のよさにも気付いて遊ぶことができるように、遊びの前に「遊んでいる時に、お友達のステキだな、いい考えだなんて思ったことある？」♡**視点3**と問い掛けた。また遊びの前後で毎回、友達に視点が向けられるような声掛けをしていた。園児から「(友達が)忍者みたいに走っていて格好良かった」との声が聞かれたことから、友達のよいところに関心を持っている姿につながったと捉えた。

(2) 友達のよさに気付いて遊ぶ姿（7月8～10日・13日）

環境構成と援助の視点（表4より）	★環境構成	♡保育教諭の援助
【視点1】 園児を受け止める 【視点2】 友達に関心をもたせる 【視点3】 互いのよさに気付かせる 【視点4】 互いのよさを伝え合わせる	☆園児一人一人のよさが生かされるような遊びの場を設ける。【視点3】 ☆園児の思いや動きに応じて、遊具の置く場所を変えたり、遊びのルールを一緒に話し合う場を設けたりしていく。【視点3・4】 ☆園児が嬉しい・楽しい・悔しい・悲しい等と多様な感情が味わい、友達と感情を共有できるような遊びの場を設け、園児と共に遊びの場をつくっていく。【視点3・4】	♡友達のよさに気付いているまなざしやつぶやきを逃さずに「(友達の) ○○しているところステキだね」等と具体的に言葉にすることで、園児同士がよさを伝え合えるようにし、思いやイメージをつなげていく。【視点3】 ♡互いのよさに気付いたり伝えたりしている姿を「いいところに気付いたのね」「見つけた時・見つけてもらった時、どんな気持ちになった?」と問い掛け、互いを認め合う喜びが味わえるようにする。【視点4】
7月8日～10日・13日に見られた園児の変容		
（くもの巣の術） 	（手裏剣入れの術） 	
・「足を大きくあげると（鈴の音が鳴らなくて）いいよ」「背中（背面）で渡るのはどう?」とアイデアを伝え合い「 <u>いい考えだね。やってみよう</u> 」と <u>友達の考えを受け止めている姿</u> が見られた。また、遊びがジャンケンゲームに発展したことで、友達が楽しんでる様子に気が付き、「仲間に入れて」と関わる園児が増えていった。 <u>友達のアイデアのよさに気が付き、遊びの楽しさを共有する姿</u> が見られた。	・「こうやって投げてみたら?」と、友達同士投げ方を教え合っている姿が見られた。また、「 <u>(友達の) 手裏剣の投げ方が上手だった</u> 」と <u>友達の動きや技のよいところに気付いている姿</u> が見られた。さらに、遊びが広がったことで、自宅から手裏剣を作り遊び道具を増やす子がいた。「 <u>みんなが楽しく遊ぶために作ってきたの?</u> 」と友達の心情面のよさに気付く姿が見られた。	
（コマ回しの術） 	←園児が考案したコマの遊び方のルール 	
・先週までの遊びの中で、コマのぶつけ合いがトラブルにつながったため、保育教諭は他の遊び方はないか提案してみた☆ 視点3 。すると園児は、積み木で階段を作り、段の上にコマをのせていく遊び方を考え、遊び始めていた。「 <u>いいね! 楽しそう</u> 」と友達の考えに共感して遊ぶ姿が見られた。	・学級全体に園児が考えた新しい遊び方を紹介する機会をつくったことで☆ 視点3 、遊びに興味や関心をもち、関わる人数が増えた。「 <u>(友達の) 手のせが18秒できていてすごかったよ</u> 」と <u>技に成功するすごさを認める姿</u> が見られた。	・再度新しい遊び方を伝え合いながら遊ぶ姿が見られた。 ・自分の思いが通らずに不満を訴えてくる子がいたことから、話し合いの場をもった☆ 視点4 。互いに思いや考えを伝え合って遊び方を共有したことで、 <u>友達のよさに気が付き、思いを受け止め合う姿</u> が見られた。（事例）
例：友達のよさに気が付き、思いを受け止める姿 「コマ回しの術」で、コマを回した後に「忍者の的」に当てるゲームをA児が提案して遊んでいた。始めは、3～4名で遊んでいたが、遊びが盛り上がり、8名と遊ぶ人数がだんだんと増えていった。自分の思い通りにならないと友達を否定的に捉えることが多いA児は、自分の思うように遊べなくなったことで、「みんながじゃままで遊べない」と保育教諭に不満を訴えてきた。そこで、保育教諭が仲介に入り、話し合いの場を設けた☆ 視点4 。 保育教諭： 「どうしたら楽しく遊べるか、みんなで考えてみたら?」♡ 視点3 園児： 「(忍者の的を) 倒したら、すぐ後ろに並ぶ」「(忍者の的とコマの色が) 同じ色に当てる」「2回ずつ投げて交代する」「(遊びたい時は) どいてっていう」 保育教諭： 「どいてって、気持ちのいい言葉なのかな?」 リフレーミング 園児： 「だったら…どいて下さい。あつ。ちょっと寄って、がいいかな?」 話し合いでは、A児が発言することはなかった。友達が遊び方のアイデアを出すことで、怒っていた表情から徐々に表情が和らいでいった。その後、遊び方を再確認し、遊びが再開された。その中で、A児はコマがなかなか回せずに困っていたが、A児の困り感に気付いた友達が、代わりにコマを回すことで、A児が的当てるゲームを楽しめるようにする姿が見られた。 その日の振り返りの場でA児は、「 <u>友達が優しくしてくれて、格好良かった</u> 」と伝えていた。		
◇事例から見られる保育教諭の見取り◇ A児は、これまで自分の思いが通らないうと、相手を否定的に捉えることがあった。始めは思い通りに遊ばず不満を訴えていたが、話し合いの場では、友達の考えに耳を傾け受け止めていた。振り返りの場にて、友達のよいところを発表する姿が見られた。このことから、友達や保育教諭から肯定的に受け止めてもらったことで、A児自身も友達のことを 肯定的に捉える姿 につながったと考える。		
◇保育教諭の見取り◇ 遊びがより面白くなるよう、園児から遊びのアイデアを引き出し、遊び道具を共に作りながら、遊びの場の環境を再構成していったことにより☆ 視点3・4 、 <u>友達の考えを受け止め合いながら遊ぶ姿</u> が見られた。また、他児にもその子のよさが伝わるように「いい考えだね」「よく気付いたね」♡ 視点3 と認める言葉掛けをした。友達のよさに気付いているまなざしが感じられたり、声が聞かれたりした際には、「友達のステキなところに気付いたのね」♡ 視点3 「友達にステキなところを見つけてもらって、どんな気持ちになった?」♡ 視点4 と互いのよさを受け止めるように援助してきた。このことで、友達の遊びの考えに共感したり、遊びのアイデアを友達同士伝え合ったりして、 <u>遊びを発展させて楽しむ姿</u> が見られた。また園児から「ハッピー（友達のよいところ）たくさん見つけたよ」という声も聞かれるようになり、 <u>友達のよさを見つけて遊ぶ姿</u> が見られた。 トラブル場面においては、話し合いの場を設けることで、互いの思いや考えを共有できるようにした。友達と考えを伝え合うことで、相手の思いを知り、多様な考えがあることに気付く様子や、 <u>友達の思いを受け止める姿</u> が見られた。 これらのことから、友達と思いや考えを伝え合いながら、遊びの環境を共につくって遊びを進めたことが、 <u>友達のよさに気付く姿</u> につながったと捉えた。		

(3) 振り返りの場において自分の思いや友達のよさを伝え合う姿

環境構成と援助の視点 (表4より)		★環境構成	♡保育教諭の援助	
【視点1】 園児を受け止める 【視点2】 友達に関心をもたせる 【視点3】 互いのよさに気付かせる 【視点4】 互いのよさを伝え合わせる		☆園児一人一人が感じたことや考えたことを伝えたいような教材を準備する。【視点1】 ☆互いの思いに興味や関心をもって話を聞けるように、落ち着いた場を設定する。【視点2】 ☆園児が互いに思いを伝えたいような場の持ち方や、思いを受け止め合えるような受容的な温かい雰囲気をつくる。【視点3・4】	♡その子なりの思いを受け止め、共感していく。【視点1】 ♡「友達のこと、ステキだなんて気付いた子いる？」等と友達のことにも関心を持ち、気付いたことを伝え合えるように問い掛ける。【視点2】 ♡「いいことに気付いたのね」「いい気持ちになったのね」等と互いのよさに気付く喜びが味わえるような言葉掛けをする。【視点3】 ♡互いのよさを伝え合い、学級で共有することで、互いを受け止め認め合えるようにする。【視点4】	
				
時期	6月下旬	6月下旬～7月上旬	7月上旬	検証保育後
遊びの姿	・保育教諭が提案した忍者遊びを楽しんでいる。 (忍者ダンス・忍者リレー運動道具を使った忍者遊び)	・園児のアイデアを取り入れた忍者遊びを楽しんでいる。 (色おにんじや・巧技台等を使った忍者遊び)	・遊び方のアイデアを伝え合いながら、忍者遊びを楽しんでいる。 ・遊びに必要な道具や、忍者の衣装を友達と製作して楽しんでいる。	・友達と遊びのルールを考え伝え合いながら忍者遊びを楽しんでいる。 ・トラブル場面では、園児同士考えを伝え合うことで、相手の気持ちに気付いて遊んでいる。
園児の言葉	・忍者のダンスが楽しかった。 ・忍者のリレーが楽しかった。	・手裏剣の投げ方が格好良かった。 ・走り方が忍者みたいで格好良かった。	・コマの手のせができて、すごかった。 ・忍者の洋服に星の模様を書くのが上手だった。	・(バラバラになった)コマを直しているのが格好良かった。 ・優しくしてくれて、格好良かった。
他児の反応	・拍手 ・「一緒だ！」	・「グーッ！」 (言葉と動作で)	・「(友達のいいところを教えてください) ありがとう！」 ・「(皆の前で話すことに緊張をしている友達に向けて) がんばれ～」	・「ピカピカ～」 (言葉と同時に動作をキラキラさせて) ・「ハッピー♪」
見取り	◎自分の楽しかったことに気付いている。 ◎友達の思いに共感している。	◎友達に関心をもっている。	◎友達を肯定的に受け止めている。 ◎友達の行動のよさに気付いている。	◎友達的心情面のよさに気付いている。
◇保育教諭の見取り◇				
自分の思いを言葉で表現したくなるような教材を活用したり、友達の思いに関心をもって話を聞くことができるような振り返りの場を工夫したりしたこと☆視点1・2、思いや考えを友達に伝えようとする姿が見られた。園児の思いを十分に受け止め共感しながら♡視点1、「お友達のステキなところを見つけた子いる？」♡視点2「ステキなところに気付いたのね」♡視点3と友達へ関心が向けられるような言葉掛けをしたことで、自分のことだけでなく、友達のいいところを知らせる言葉が聞かれた。さらに、互いに思いやよさを受け止め認め合うことができるよう、園児の話を聞く様子に応じて、振り返りの場の環境を変えていった☆視点3・4。また、「友達のいいところを見つけてどんな気持ちになった?」「見つけてもらってどんな気持ちになった?」♡視点3・4と問い掛けていった。友達のよさに気付く喜びが味わえるように、「お友達のこともよく見たのね!ステキだね!」と園児の思いに共感しながら、周囲の友達にもよさが伝わるように認めていった♡視点3・4。このことで、友達の行動面のだけでなく、心情面のよさにも気付く様子や、互いのよさを受け止め合う姿が見られた。さらに、友達の思いを聞いた後の他児の反応のバリエーションが増えたことで、振り返りの場での温かい雰囲気がつくられた。「(友達のいいところを教えてください) ありがとう」という言葉も聞かれたことから、園児同士が互いを肯定的に受け止め合う関係が育まれつつあると捉えた。				

3 保育実践を通しての園児の変容

(1) 調査結果から見る友達関係の変容

実践前後によく遊ぶ友達について、園児に聞き取りを行った(図2)。実践前は、クラスの半数の園児が、よく遊ぶ友達は1人と答え、よく遊ぶ友達がいないと答えた園児もいた。遊びでは、5～6名の小集団で遊んでいる様子は見られたが、よく遊ぶ友達が1人と答える園児が多かったことから、友達関係がまだ広がっていない様子が伺われた。

実践後に同じ質問で聞き取りを行ったところ、全員が2人以上の友達の名前をあげたことから、友達との関わりが増えたことが分かった。関わりが増えたことで、友達に関心をもつようになり、友達のよさに気付く姿につながったと捉える。

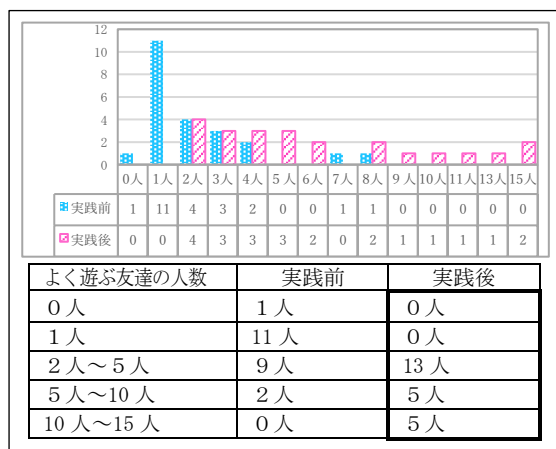


図2 よく遊ぶ友達の数(園児からの聞き取り)

(2) 抽出児の変容

友達との関わりが少ない子、友達の思いを受け止めることが苦手な子、自分の思いを伝えることが苦手な子を抽出児として取り上げた。保育実践を進める中で、保育教諭は「園児を受け止める」「友達に関心をもたせる」「互いのよさに気付かせる」「互いのよさを伝え合わせる」ように援助を行ってきた。また、実践を通してD児は変容が顕著に見られたことから、表を分けて記した。

	園児の姿	保育教諭の援助	園児の変容	保育教諭の見取り
A児 (新入園児・男児)	- 保育教諭に認めてもらいたい気持ちが強く、「先生、見てよ」とよく訴えている。 <u>自分の思いを強く押し通そうとする場面が多々見られ、「えー」「やるな」と相手に否定的な強い口調で、自分の思いを訴えている。</u>	「見てって言ったのに」という声に「ちゃんと見ていたよ」と肯定的に受け止めながら、A児の思いに丁寧に寄り添う援助を行った。 - 友達のよさに気付いている時には、「ステキなことに気付いていい気持ちになったね」と気付く喜びが味わえるように声を掛けていった。	- 保育教諭や友達に受け止められ、認められる経験を重ねたことで、相手のよさにも気付くようになっていく。 (前述の事例) - 自分の思いを相手に分かるように伝えようとするようになり、「<u>今度から怒らないで話そう</u>」と<u>肯定的な言葉を発言する</u>ようになってきた。	A児の思いを受け止め認めていったことで、安心感を持ち、肯定的な言動へとつながった。今後も肯定的な言動を向けていくことで、自分の感情や友達のことを肯定的に受け止めることができるよう援助していく必要がある。
B児 (新入園児・女児)	- 周りの園児の様子を見ていることが多い。 <u>一人遊びが多く</u>、保育教諭を仲介に入ること、友達との関わりをもっている。 - 保育教諭が話しかけると、色々話すが、<u>自分から思いを伝える姿</u>は少ない。	「B児さんのポーズ見て！いい考えだね」と周りの友達にB児のよさを伝えることで、B児も友達に関心を向けてよさに気付けるようにした。 - B児の伝えたい思いや気持ちに「そうだったのね」と共感することで、思いや考えを伸び伸びと伝えられるようにした。	- 友達との関わりが増え、<u>自ら友達を誘って忍者遊びを楽しむ姿</u>が見られた。 - 振り返りの場では、<u>積極的に自分の思いや感じたことを伝える</u>ようになっていく。 - また友達の思いにも耳を傾け、思いを受け止めようとする姿が見られる。	- 忍者遊びを通して、B児の動きを周りの友達に知らせ<u>よさに気付かせる</u>援助を繰り返し行ってきたことで、B児も友達に関心をもち、友達関係が広がっている。 - B児の思いを受け止め共感してきたことで、自分の思いや考えを伸び伸びと伝えることにつながった。
C児 (進級児・男児)	- 新しい環境に戸惑いを感じている様子が見られる。 <u>友達の思いや考えを受け止めにくく</u>、自分の思いを押し通そうとして、<u>遊びの途中で抜いたりする</u>。 - 気持ちの切り替えに時間を要する。	- 遊びに必要な道具を一緒に準備し、本児のよさや持ち味を生かしていった。また「C児さんが、楽しそうなことを考えてくれたよ」と学級の友達にも知らせていった。 - 友達のよさに気付いている時には、「(友達のこと)よく見ていたのね」とC児の気持ちを十分に認めていった。	- 自分の思いを言葉で伝えながら、<u>友達の思いにも気付いている姿</u>が見られるようになっていく。 - 自分の思いを周囲にも受け止めてもらう経験を重ねたことで、<u>友達の思いを受け止めようとする姿</u>が見られる。 - 気持ちの切り替えが早くなっている。	忍者遊びを通して本児のよさを周りに知らせていきながら、友達の思いにも気付けるよう<u>に関心をもたせる</u>援助を行ってきた。また「友達のよさに気付く自分」を保育教諭が十分に受け止め認めてきたことで、C児も友達のよさに気付くことにつながった。
D児の姿	- 新入園児、男児。 - 集団生活の経験はあるが、友達と関わるのが少なく、<u>一人遊びが多い</u>。 - 周りの友達の遊びの様子をよく見ているが、自分から関わるのが苦手である。保育教諭が仲介に入ると、集団遊びや簡単なルールのある遊びに、一緒に参加する。十分に自己発揮できていない姿が見られる。 - 自分の思いや考えを伝えることに消極的で、<u>友達に自分の思いを伝えることはほとんど見られない</u>。			
	保育教諭の援助	園児の変容	保育教諭の見取り	
6月下旬～7月上旬	- D児を遊びに誘い、友達にも関心をもてるように、関係をつなげていった。 - 友達に向けるまなざしからよさを捉えている時には、「(友達)面白そう考えだね」と言葉に代弁していくことで、自分の気持ちを伝えていけるようにした。 「どんな遊び方がいいか、D児さん一緒に考えてくれない？」と遊びのアイデアを引き出していった。その中で「いい考えだね！友達にも教えていい？」等とよさを十分に認めていった。	- 忍者遊びに喜んで参加するようになり、その中で友達と関わって遊ぶ姿が見られた。 <u>保育教諭には、自分のしてほしいことを伝える</u>ようになった。 - 保育教諭が遊びのアイデアを聞くと、考えて答えようとする。「みんなと一緒に伝えてみる？」と促してみると、「ちょっと恥ずかしい」と答え、少し困った表情が見られた。	- 保育教諭と一緒に遊ぶ中で、<u>友達に関心をもたせる</u>援助により、友達との関わりが増えてきた。 - 保育教諭があらまの姿を受け止める援助により、自分の思いを伝えようとする気持ちにつながった。しかし自分の思いを伝えることに自信がない様子を感じられる。引き続き思いを受け止めながら、<u>自分のよさに</u>気付かせていく。	
7月8～10日・13日	- D児の心の動きを捉えながら「いいことに気付いたね。みんなと一緒に知らせてみない？」と感じたことや気付いたことに、自信がもてるように援助していった。 - D児の思いや気持ちを一緒に伝えていきながら学級の友達へ「D児さんステキなことに気付いていたね」「(相手に)気付いてもらってどんな気持ちになった？」と問い掛けることで、思いやよさを受け止め合う喜びが味わえるようにした。	- 友達を誘いながら、好きな忍者遊びを楽しむ姿が見られた。 <u>友達のいいところに気付き、振り返りの場で伝える</u>ことができた。初めは保育教諭と一緒にだったが、<u>自分から進んで気付いたことを伝える</u>ようになった。 「よく遊ぶ友達」も検証前と後では、<u>1人から5人</u>に増えた。	- 保育教諭がD児のよさを周りに知らせていきながら<u>友達のよさに気付かせ</u>る援助を繰り返し行ってきたことで、友達のいいところに気付く姿につながった。 - 保育教諭や友達から肯定的に受け止め認めてもらった経験を味わったことで、気付いたことを伝えたいという気持ちにつながった。 <u>互いのよさを伝え合わせる</u>援助により、周りの友達もD児のよさに気付いたことで、友達関係が広がった。	

VI 実践を通しての考察

本研究では、遊びの場や活動後の振り返りの場において、「園児を受け止める」「友達に関心をもたせる」「互いのよさに気付かせる」「互いのよさを伝え合わせる」と、4つの視点で環境構成と援助を行うことで、友達のよさに気づき認め合えるよう、研究を進めていった。

保育実践において、忍者遊びを通して園児は、友達と遊びの楽しさを共有したことで、友達に関心をもって関わり、友達の思いや考えに気づき、受け止めることができたといえる。しかし、遊びの場において、園児は友達のよいところに気付いても、言葉で伝えることは少なかった。そのため、保育教諭は遊びの環境を共につくっていく中で、園児一人一人のよさや持ち味を生かしていけるようにした。さらに一人一人のよさを学級全体に伝え、共有していった。振り返りの場では、感じたことや気付いたことを十分に受け止めながら、友達のよさにも気付けるように言葉掛けをした。その結果、園児同士の思いやイメージが共有され、自分のことだけでなく友達のよさを言葉で伝えようとする姿につながったと考える。また、保育教諭の園児を肯定的に受け止める姿勢が、園児同士も互いを肯定的に捉える姿につながり、友達のよさを受け止め合う関係を育むことができた。

実践を通して、園児は保育教諭との温かい関係の下、友達の思いや考えに共感し、友達のよさを受け止め合う経験を重ねたことで、互いのよさに気づき認め合う関係の土台を培うことにつながったといえる。また、互いのよさを認め合うために、「園児と遊びの環境を共に作る」中で、「友達のよさを知りたくなる、伝えたくなる気持ち」を育むことが重要であると思われる。今後も園児同士の関わりが深まるように環境構成や援助の工夫を行っていきたい。

VII 成果と課題

1 成果

- (1) 保育教諭が園児同士のイメージをつなぎ共に遊びの環境をつくってきたことで、園児は友達に関心をもって遊ぶことができた。また、思いや考えを伝え合う経験を重ねたことから、振り返りの場においても互いのよさを受け止め合う姿につながった。
- (2) 保育教諭が、園児一人一人を肯定的に受け止めたことから、園児は安心感をもち、自分の思いや友達のよさを伝えることができた。学級の温かい雰囲気がつくられたことで、園児同士も互いを肯定的に受け止め合う関係を築くことにつながった。

2 課題

- (1) 園児が互いのよさを認め合う姿は、協同性の育ちにつながることから、工夫したり協力したりして遊ぶことができるような環境構成と援助の工夫を継続していく必要がある。
- (2) 園児が互いに思いや考えを伝え合うために、言葉による表現を豊かにするための援助や、園児同士の対話が広がるような声掛けの工夫が必要である。

《主な参考文献》

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
『幼児理解に基づいた評価』
『育ての心（上）』
『心を育てる幼児教育―道徳性の芽生えの育成―』
『保育方法論』
『ひっくりカエル!』
『遊びを中心とした保育』
『新時代の保育双書 保育内容 人間関係』
『事例で学ぶ保育内容 領域 言葉』
『保育・教育シリーズ言葉の指導法』

内閣府・文部科学省・厚生労働省
文部科学省
倉橋 惣三
神長 美津子
神長 美津子
安部 博志
河邊 貴子
濱名 浩
無藤 隆
大豆生田 啓友

フレーベル館 2019
チャイルド本社 2019
フレーベル館 2008
東洋館出版社 2004
光生館 2019
小学館 2018
萌文書林 2012
みらい 2018
萌文書林 2018
玉川大学出版部 2019